

明廿二日から九日間 名古屋新聞大畫廊

第十五回 春陽會展

「繪」作 氏 庵 放 杉 小 は 眞 寫

わが畫壇の最高權威の一つ、春陽會展の名古屋公開はわが社の主催により廿二日から開催されることになった。独自の畫風、まや大風格を真へるに到つた小杉放庵氏の大作を始め、石井鶴三、倉田三郎、木村莊八、中川一政、倉田白羊、その他わが美術界の代表的作家の力作は繪廊として集められ、これぞ初夏の中央日本に咲き出でたる豪華な藝術の花園ともいふべきである。

主催 名古屋新聞社



【写真は小杉放庵氏作《椿》】

第十五回 春陽會展

明廿二日から九日間 名古屋新聞大画廊

わが画壇の最高權威の一つ、春陽會展の名古屋公開はわが社の主催により廿二日から開催されることになった。独自の画境いまや大風格を具へるに至つた。小杉放庵氏を始め、石井鶴三、倉田三郎、木村莊八、中川一政、倉田白羊、その他美術界の代表的作家の力作は絢爛として集成され、これぞ初夏の中央に咲き出たる豪華なる芸術の花園ともいふべきである。

『名古屋新聞』 昭和十二年五月二十一日付

春陽會展

沸く人氣堂々蓋あけ

本社南館大畫廊の本社主催、第十五回春陽會展は待望のうちに二十二日堂々と蓋あけした、流石に小杉放庵、石井鶴三兩畫伯の名品など入場者のすべてを甘美な芸術境へ誘ひこますにはやまない。



春陽會展

沸く人氣堂々蓋あけ

本社南館大画廊の本社主催、第十五回春陽會展は待望のうちに二十二日堂々と蓋あけした。流石に小杉放庵、石井鶴三両画伯の名品など入場者のすべてを甘美な芸術境へ誘ひこますにはやまない。

『名古屋新聞』 昭和十二年五月二十五日付